

広川町	< 稲むらの火の館 >	第55号	稲むらの火の里
全戸配布	やかた だより	H26・11	濱口梧陵生誕地

**11月5日は
「津波防災の日」です**

11月5日は法律で決められた「津波防災の日」です。平成23年6月に「津波対策の推進に関する法律」が制定されました。ご承知のとおり、11月5日は濱口梧陵さんが活躍した安政元年(1854)の南海地震が起こった日にちなんで制定されたものです。この日を中心に、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるために各種啓発活動が行われます。

今年も、この11月5日を中心として、諸々の事業を通じて津波防災の啓発活動が行われます。広川町が関係するもので、次のものがあります。



11月3日 NHKラジオが午前10時より「稲むらの火の館」から全国へ特別番組が放送されます。

11月5日 広川町では恒例の「津波祭」、内閣府との共催の避難訓練(全国8ヶ所)、津村建四朗先生による講演会が行われます。

11月8日 国土交通省や和歌山県、大阪府が主催する「大規模津波防災訓練」が和歌山下津港西浜で開催されます。この会場で、防災フェア会場もあり、ここで「稲むらの火の館」ブースが設置されます。

協力団体として紹介され、多くの参加者にPRできるのです。

「津波防災の日」の事業がこんなにあるのです。

**第12回稲むらの火まつり
盛大に開催される**

今年で12回目となる「稲むらの火まつり」は10月18日夕方から開催されました。



稲むらの火の館前を通るたいまつ行列

総勢400人余りの人々がたいまつを掲げて行進されました。形を変えた避難訓練とも言えると思いますが、参加者は皆にこやかに歩いていました。

「稲むらの火の館」もかがり火を焚いて、参加者の皆様をお見送りいたしました。カメラマンやマスコミの関係者も見かけました。

津波災害をどう継承して、次の防災に役立てていくかが、東北でも課題になっているそうですが、この「稲むらの火まつり」のようなイベントこそ的確な行事だと言われる専門家の方々もおられます。

**入館者数が250,000人を
突破しました**

平成19年4月22日の開館以来、7年半になる10月18日「稲むらの火の館」の入館者が250,000人を突破いたしました。



賑やかな館内

耐久社記念館に就いて(2)

濱口 恵璋

3

耐久社は、嘉永5年に田町撃剣の稽古場を設けたことに萌し後に歌学者となった海上胤平が撃剣の指南をし、佐々木五十鈴が四書などの素読をして居った。次いで小野石齋を聘して漢籍を講じて居ったが、石齋は長州の出身であるので、文久三年八月、京都に於ける長藩の変以後、紀州藩が征長の命を蒙むるような事情の為に逃れ去ったやうである。それ以後はこの稽古場も閉鎖せねばならぬような事情であった。ちょうど其頃安楽寺が西の浜にあったのを元治元年から慶応二年にかけて大道に移した。その頃から、安楽寺の境内に稽古場をこしらへ、一時は安楽寺の本堂でも竹刀の音が聞えて居ったようなこともあった。

そして明治三年に安楽寺の東側に、この度修築された校舎そのものが建てられ、塾規則などを定め、永続を誓うて耐久社と名づけることになった。当時安楽寺十五代の住職濱口大英(号松塘)と云うのが慶応元年に銚子宝備寺中道和上の許に於ける修学を終えて帰国し安楽寺の移転に力を尽して居たのが、同二年三月に落成したから、それ以後耐久社の経営に勤め、濱口梧陵、濱口東江、岩崎明岳等に依頼して校舎を寺の東側に建てて、いろいろ世話をしたのである。当時漢籍の師匠としては栖原極楽寺の石田冷雲師を聘して、六の日に講釈を願って居った。



4

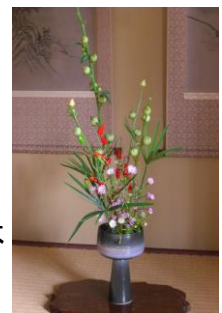
大英(松塘)は器用な方であったから、いろいろ彫刻などもして現に記念館の玄関に掛けてある『耐久社』と云う額も自分で彫刻して掲げたもの

である。然るに明治八年一月十七日には安楽寺にあった耐久社を広村学場とし、大英は村学教員となった。それもわずかの間であって小学校令の発布により小学校はは正覚寺内に設けらるることとなり、明治九年三月から大英も小学六等教員として勤務することになった。

然るに身体が虚弱であって同年九月八日、三十一歳を以て死亡した。それゆへ耐久社は其後は松本徳行、桑村元愷、桑村彦雄、浅井篤と相続いで監督となったのであった。松本徳行は海部郡冷水村了賢寺の方で大英の嗣として明治十年十一月から同十三年五月まで安楽寺に居ったので耐久社をも管理して居ったが、事情ありて去って河内に行った。次の桑村元愷同彦雄は後に有田郡々長として野田四郎氏の次に来た佐々木米三郎氏の親と兄さんであった。何れも和歌山の方である。その次の浅井篤と云う方は後に京都大学の教授になった小川琢治氏の親である。これは田辺の方である。この方々は何れも漢学を主とした方で幼〇(一字不明)のものには素読、年長のものには義したり、習字作文などの添作をするにすぎなかったのである。(つづく)

<お客様の声>

- ① 梧陵さんは日本の鏡ですね。こんな立派な人がいたとは知りませんでした。もっと日本中の人に知ってもらいたいですね。(大阪方面から来られた方)
- ② 「ツギー谷のお花畑」というネーミングもいいですね。アナベルが満開の頃に行ってみたいです。(黒竹の杖をみて) 地元の方が作っているのですか。黒く光ってきれいです。1本買って帰ろうかなあ。(女性)



<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL: 0737-64-1760 / FAX: 0737-64-1761

http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano/hi/

*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

*休館日：月曜日・火曜日(祝日開館)

年末年始(12/29~1/4)

*記念館だけの入場は無料です。